

令和4年度 磐田市立豊田東小学校 学校評価書

4段階評価アンケート(4:そう思う 3:どちらかといえばそう思う)の割合↓ (目標値より高い…A 目標値より5%以下…C)

重点	取組	No.	評価指標	R3年度	R4年度結果	考察・改善策	学校関係者 評価委員から			
たくましく生きる子ども	・子供の思いに寄り添いながら、子供たちに夢や目標をもたせ、目標達成に向かう過程を認め励ます。	1	難しいことも失敗を恐れないで挑戦している。-児童:92%-	92%	↘ 91%	B	○授業を参観した印象として、授業の雰囲気は温かく、子供たちがしっかり学習に向かっていた。このまま続けてほしい。 ○登下校時に子供たちと接するが、子供たちは元気であいさつもはっきりしてくれている。 ○グローバルな人材が求められる中、項目8「外国語の授業が楽しい(4年生回答)」の数値が8ポイント上向いたのは、とてもよい。 ○項目11～14については、先生方が子供たちに対して伴走型の指導・支援をしている結果ではないか。今後も深い児童理解と子供に寄り添い温かく丁寧な生徒指導は継続してほしい。 ○項目20「中学校での生活を楽しみにしている」の数値が下がっているが、北部小との交流をもう少し増やせないか。ながふじ学府音楽の日に、6年生の子供たちもステージに立って歌うことができれば、子どもたちは自信をつけ、北部小の子供たちにも気後れせずに進学することができると思う。近所に住む6年生からは「もう少し交流したかった」という声を聞いた。東小ののびのびとした雰囲気は大事にしつつ、同じ場に立つ経験をもたせてあげられるとよい。 ○参観している保護者の無駄話が少ない、とてもよい。また、子供たちがタブレットを使ってプレゼンをしている姿に驚いた。ただ、辞書の活用も大切にしてほしい。 ○項目18「学校に相談できる人がいる(93%)」は、決して高いとは言えないのではないか。SCやSSW等とも連携し、相談できる環境や雰囲気を大切にしていきたい。 ○子供たちの多くが主体的な姿、自分の言葉で発表していた。豊田東幼稚園の卒園児は全員豊田東小に入学する。日頃から幼小の連携がされていることの一つの表れではないだろうか。 ○サイエンスショーやようこそ先輩、アスリートの学校訪問など、子供たちが本物にふれ興味や関心を高めることはできていると思う。そこからさらなる興味や発展につなげて授業と関連を図っていけると、学ぶ喜びをより強く感じることができるのではないか。 ○プレゼンについては、動画でも参考になる事例が出ている。目標となる姿を具体的に見せてから取り組ませると、質の高いプレゼンができるようになるのではないかと。			
		2	将来の夢や目標を持っている。-児童:90%-	90%	↗ 91%	A				
学びひたる子	・深い児童理解に努め、個に応じた教科指導(個別最適化、多様化・多彩化)に努める。 ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行う。 ・聴き合う関係性の向上を通して、共に学び自分を表現する力の育成をめざす。	3	授業内容がよく分かっている。-児童:96%- 子供たちは当該学年の学習内容を理解している。-教師96%- 個に応じた支援・指導ができています。-教師:95%-	95%	↗ 96%	A	○令和4年度は、令和3年度に設定した重点目標「学びひたる子」のさらなる深化をめざす年と位置付け、教育活動に邁進してきた。項目3「授業の内容がよく分かっている」は、昨年度より1ポイント上昇し、教師による評価「子供たちは当該学年の学習内容を理解している」「個に応じた支援・指導ができています」と併せ、とても高い数値結果となった。教師の個に応じた丁寧な指導・支援が、子供たちの学習理解につながっていることが読み取れる。この数値に満足することなく、より「分かる授業」「(考えて)楽しい授業」をめざしていきたい。 ○項目4から7については、全体的に目標値に届かず、昨年度よりも数値が下がってしまった。「学びひたる子」の具体的な姿でもある項目4「よりよい方法や考えを追究しようと考えた」、項目5「友達の考えや意見を受け入れ、自分の考えに生かした」については、昨年度よりもその質的向上をめざして指導してきたことにより、子供たちの自己評価も厳しくなったのではないかと推測される。項目4から6については、安定した学級経営はもちろん、互いを認め合う学級の雰囲気が基盤にあってはじめて子供同士の聴き合いや学び合いが成立する。次年度も聴き合いの質を高め、自分の考えを寛容させたり深化させたりしながら、子供たちが学ぶ喜びや実感を味わうことができるよう授業改善に努めていく。 ○昨年度から一人一台学習者用端末が導入され、日々の授業において端末を活用することが日常となっている。学習者用端末は、学習のツールとしては極めて有効である。項目10(令和4年度より全児童回答)においても、9割以上の児童が、「端末などを使って、自分の考えをまとめたりわかりやすく相手に伝えたりすることができる」と回答している。一方で、ツールに頼りすぎるあまり「実際の力が付いているようで付いていない」「わかったつもりになっている」といったことも懸念されている。これからは端末の使用を目的とせず、授業等において学習の効果や効率を高めるツールとしての活用を研究していきたい。 ○項目8(4年生回答)は昨年度に比べ大きく上昇、項目9(5・6年生回答)については微減という結果になった。特に4年生の外国語活動は、1人の教師が2学級を受け持つ教科担任の形をとったことで授業改善が進み、「分かる楽しい授業」になったと考えられる。			
		4	自分の考えを発表することができる。(グループやペア学習も含めて)-児童91%-	91%	↘ 86%	B				
		5	よりよい考えや方法を追究し、粘り強く考えた。-児童92%-	91%	↘ 89%	B				
		6	友達の考えや意見を受け入れ、自分の考えに生かした。-児童94%-	93%	↘ 91%	B				
		7	進んで先生に聞いたり自分で調べたりして学習している。-児童:90%-	89%	↘ 86%	B				
		8	外国語の授業が楽しい。-4年生:89%-	89%	↗ 97%	A				
		9	友達や先生と英語で質問したり答えたりすることができる。-5・6年生:95%-	95%	↘ 93%	B				
		10	端末などを使って、自分の考えをまとめたりわかりやすく相手に伝えたりすることができる。-児童:89%-	89%	↗ 92%	A				
		大切に・仲間を	・自ら判断し行動できる環境設定を通じた自己肯定感や自己有用感の育成に努める。 ・深い児童理解と子供に寄り添い温かく丁寧な生徒指導を推進する。	11	あいさつや返事ができている。-児童:93%-	93%		→ 93%	A	○項目11、12、13はいずれも昨年度と同じ、もしくは昨年度よりもポイントが上がっている。その背景には、教師(家庭や地域)の粘り強い指導と支えがある。次年度以降も深い児童理解と子供に寄り添い温かく丁寧な生徒指導を継続し、だれもが安心して学校生活を送ることができるよう、物的環境や言語環境を整えていく。 ○項目14では、目標値に対して5ポイント上昇している。安定した学級基盤をもとに、これまで子供に寄り添いながら認め励ます指導を丁寧に行ってきた一つの表れであると分析する。今後も今まで以上に認め励ます声掛けや言葉掛けを大切に、教師と子供、子供と子供の信頼関係を深め、人と人がかかわる中で自己肯定感や自己有用感を感じられるよう、手立てを工夫していきたい。
				12	学級(学校)は、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある。-児童:93%-	93%		↗ 95%	A	
13	友達にあたたかい(やさしい)言葉を使うことができている。-児童:95%-			95%	→ 95%	A				
14	わたし(自分)は学校や学級、周りのために役立っている。-児童85%-			84%	↗ 89%	A				
健やかな体	・運動、食育等を通じた行動体力・防衛体力の向上に努める。 ・安全に関する指導を充実させ、危険予知力の向上をめざす。	15	進んで運動に取り組んでいる。-児童:91%-	91%	↘ 90%	B	○昨年度より項目15は1ポイントのダウン、項目16は2ポイントのダウンとなったが、ほぼ昨年度と同様の結果になった。コロナ禍において、手洗い等の取組はもはや日常となっているが、これからは健康や安全に対する児童の意識を高め、体力の向上は図っていく。			
		16	手洗いうがいをしっかりと行っている。-児童:98%-	98%	↘ 96%	B				
豊かな心	・Q-Uテストや学校生活に関するアンケート等を活用し、子供一人一人が安心して学校生活を送れるようにする。 ・SCやSSWとの連携を図り、困難を抱えている児童や保護者の支援を行う。	17	学校が楽しい。-児童:98%-	98%	↘ 96%	B	○昨年度より項目17は2ポイントダウンしたが、項目19は1ポイントアップしている。(項目18については昨年度同様)教師は、Q-Uテストや学校生活に関するアンケート等の積極的活用はもちろん、日々の子供の変化をつぶさに見取りながら一人一人に応じて対応を重ねており、保護者にも理解がされていると評価する。一方で「学校が楽しくない」と思う子がいることも事実である。静岡県教育委員会の基本理念でもある「誰一人取り残さない教育の実現」を踏まえ、これからはだれもが安心して楽しく学校生活を送ることができるよう努力していく。			
		18	学校に相談できる人がいる。-児童:93%-	93%	→ 93%	A				
		19	教師は子どものことを理解して指導にあたっている。-保護者:95%-	96%	↗ 97%	A				
地域社会とつながる学校	・CSDとの連携を図り、学校支援ボランティアを始め、地域や家庭の教育力を学校教育に活かす。 ・本校の教育活動についての理解が深まるよう、丁寧かつ分かりやすい情報発信に努める。	20	中学校での学習や生活を楽しみにしている。-6年生:90%-	93%	↘ 88%	B	○項目20、21は昨年度よりも大幅にマイナスになってしまった。今年度は中学の入学説明会に6年生も参加し、授業や部活動の様子を参観したが、実際の様子を見たり聞いたりすることにより、逆に不安が増大した面があるのではないかと考えている。 ○今年度はホームページでの情報発信がタイムリーにできなかったという反省があり、それが項目21の結果にもつながっているのではないかと考えている。今後も学校教育についての情報発信は、丁寧かつ分かりやすいものとなるよう努力していくとともに、PTA役員をはじめ、学校教育に関わる多くの方々との意見交換の場も大切にしていきたい。 ○項目22について、今後も豊田東交流センターとも連携を図りながら、学校が地域コミュニティの中核としての役割を果たしていくことができるよう努力していく。			
		21	豊田東小で目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っている。-保護者:98%-	99%	↘ 94%	B				
		22	今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。-児童:89%- 子どもたちは、地域の人たちと、学校や地域で関わっている。-教師90%-	89%	↘ 86%	B				

学校運営協議員の皆さんからは、学校の取組について御理解をいただき、肯定的な御意見を多くいただいた。ただ、いくつか課題も御指摘いただいたので、その部分についてはしっかりと改善を図っていく。特に、豊田中、豊田北部小との交流、連携は大きな課題である。必要な連携はしっかりと図り、子供たちが気後れせず北部小の子供たちと交流したり豊田中に進学したりすることができるようにしていきたい。また、本校の独自性を大切にしながら、どうしたら一体校のよさ、利点を東小に無理なく反映させていくことができるか知恵を絞っていききたい。
令和5年度は「学びひたる子」「自分・仲間を大切にする子」を重点目標に定めて3年目、まさに集大成の年となる。今後も、組織的かつ計画的な教育課程の編成・実施を通して、学校教育目標の具現に迫っていききたい。